



全ての子が学ぶことを楽しむために

「リスキリング」「リカレント」という言葉を聞いたことがないですか？現在の社会は、今日の常識が明日の非常識になるぐらい進歩や進展が目まぐるしい状況です。大人の社会でも、リスキリング(Reskilling)、職業能力の再開発や再教育を指し、特にデジタルトランスフォーメーション(DX)に対応するために新しいスキルを習得することが求められたり、リカレント教育により、社会人になって再度、大学などに入学し学び直しをすることが求められています。「リカレント(Recurrent)」は「回帰」を意味し、学びを繰り返すことを意味します。

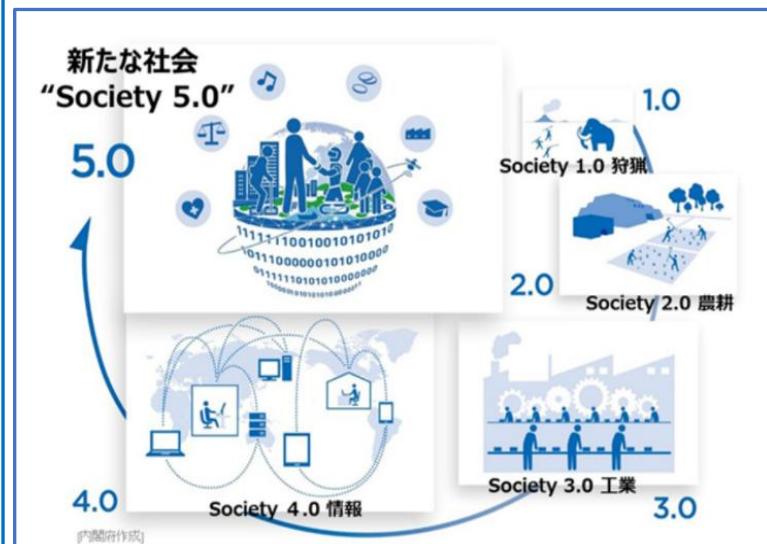
これから社会は人生100年と言われ、これまでの社会のように、青少年の時期に学校教育を受け、それを基に仕事をするような社会から大きく変化すると言われています。従って、学習に主体的でなく、させられていると捉える受け身であることは、これまで以上、生活や就職などで厳しい状況になる可能性が高くなります。

ではなぜその様な社会になってきているのでしょうか？これは以下の社会の変化の流れからだと考えられます。少し難しくなりますがお付き合い下さい。

狩猟採取→農耕社会→身分社会→学歴社会→生涯学習社会
Society 1.0→Society 2.0→Society 3.0→Society 4.0→Society 5.0

狩猟採取の時代→農耕社会時代（身分制度ができてき）→一定の身分ができた身分社会（士族に生まれた人は士族、農民に生まれたら農民と将来が固定された時代）→学歴社会（生まれた家に関係なく学んだことが評価される時代）→生涯学習社会（生涯にわたってあらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果が適切に生かすことができる社会）

※学歴社会については悪いイメージを持つ方が多いと思いますが、生まれた家に関係なく学んだことが評価される時代と捉えるとイメージが変わりませんか？



左の図は内閣府が作成したものです。社会を1.0から5.0に分けたものです。

社会の変化は人々の生活が豊かになるために工夫してきたものでもあります。その社会に対応するために、教育・学習も変化していく必要があります。その変化に対応できるかどうかが大切なポイントとなります。

今後は、生涯にわたり学びを楽しむことができる素地を学校で作っていくことが求められています。先行きが不透明であることを不安と捉えず、ワクワク楽しむという発想の転換と、学びは苦行ではなく楽しいものと捉えることが大切になってくると言えます。

全ての子どもたちが学ぶことを楽しむためには、学校が果たすべきこと、各家庭が果たすべきことがあります。誰かがやってくれるだろうではダメです。私たち大人がまず主体的になって日々の生活を過ごす姿が子どもたちの学ぶ姿へ大きな影響を与えます。今回の学校便りは少し難しい内容になっていますか？子どもたちの学力の課題は、私たち大人の姿の鏡映しとも言えます。子どもたちの学ぶ意欲を高めるためにも、私たち大人が学び続ける姿、楽しく学ぶ姿を見せていくませんか？私は沖縄県生涯学習審議会の委員長でもあります。沖縄県は他県と比較し、自動的に大人が学んだり、サークルを作ったりすること少ない状況にあります。自分たちの地域を、自分たちで楽しく豊かにする取り組みを、学校と一緒に取り組んでいきませんか？